



Chapter

3

Data

第3章
資料



■ スケジュール

2021

11月9日(火)	AAIC2023 開催概要決定／公式サイト開設
12月10日(金)	公募要項発表
12月24日(金) ～2022年5月16日(月)	作品応募受付

2022

1月22日(土)	AAIC2023 トークイベント・公募説明会in名古屋／港まちポットラックビル
1月30日(日)	AAIC2023 トークイベント・公募説明会in東京／3331 Arts Chiyoda
2月12日(土)	AAIC2023 トークイベント・公募説明会in福岡／福岡アジア美術館
2月20日(日)	AAIC2023 トークイベント・公募説明会in京都／FabCafe Kyoto ※以上4回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、各会場の実施を中止し、オンラインで開催。後日、公式サイトで公開。
3月12日(土)	AAIC2023 トークイベント・公募説明会in金沢／金沢アートグミ
3月19日(土)	AAIC2023 トークイベント・公募説明会in岐阜／岐阜県美術館
9月1日(木) ～2023年1月13日(金)	AAICサポーターズ(ボランティア)募集
9月25日(日)	一次審査会／JRゲートタワー カンファレンス
11月9日(水)	一次審査結果発表
11月27日(日)	AAIC2020大賞作家によるワークショップ「石から見いだす自分だけのカタチ」 講師:山本麻璃絵+姫野亜也／飛騨高山まちの博物館(高山市)

2023

1月15日(日)	AAIC2023入選作家によるワークショップ「空気と光で体感!『巨大気球を浮かせてみよう。』」 講師:奥中章人／セラミックパークMINO(多治見市)
2月5日(日)	AAIC2023入選作家によるワークショップ「おもしろいうごきと景色を組み合わせ、ショートムービーをつくらう『カメラでうごき採集!』」 講師:身体企画ユニット ヨハク／大垣市サイトピアセンター(大垣市)
3月5日(日)	AAIC2023審査員によるトークイベント 山極壽一 講演会「アートは人類に何をもたらしたか」／岐阜県美術館(岐阜市)
3月20日(月)～3月23日(木)	ベースキューブ設置
3月24日(金)～4月6日(木)	作家作品制作
4月9日(日)	二次審査会／岐阜県美術館
4月18日(火)	二次審査結果発表
4月22日(土)	表彰式・開場式／AAIC2023 開幕 「Artist IN THE CUBE」(各作家)
4月23日(日)	AAIC2023入選作家によるワークショップ「目隠し食育陶芸体験」講師:小孫哲太郎
4月30日(日)	AAIC2023審査員によるクロストーク“「リアル」のゆくえ” 登壇者:岩崎秀雄・北村明子・森村泰昌、聞き手:中村陽子
5月5日(金・祝)	AAIC2023入選作家によるワークショップ「超巨大! 透明な風船にお絵描き!」講師:奥中章人
5月14日(日)	AAIC2023入選作家によるワークショップ「段ボール箱を作ってみる。」講師:北川純
5月19日(金)	AAIC企画委員によるキューブツアー
5月20日(土)	AAIC2023入選作家によるワークショップ「大きな／小さな生き物?!視点を変えればおもしろい」 講師:florian gadenne+miki okubo
5月28日(日)	AAIC2023入選作家によるワークショップ「橋を渡ろう!」講師:古屋崇久
6月16日(金)	AAIC企画委員によるキューブツアー
6月18日(日)	AAIC2023入選作家によるワークショップ「太陽がなくなったら」講師:千葉麻十佳
	AAIC2023 閉幕
6月19日(月)～6月25日(日)	作品・キューブ撤去

■ 広報

華やかな会場装飾とともに、ポスター・チラシ・雑誌広告・新聞広告・交通広告・web広告等々で広く告知。
AAIC2023では、岐阜駅前を飾る「シティドレッシング」と、公式サイトから鑑賞できる「バーチャル鑑賞」を実施した。

会場装飾



美術館正門



会場エントランス



展示室3入口



展示室4入口



審査員講評パネル



コンセプトパネル



スケジュールパネル



ホールタペストリー

ポスター／チラシ／広告／グッズ

公募期：2021年12月24日－2022年5月16日

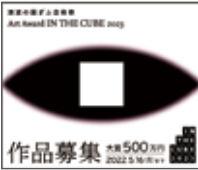


公募ポスター



公募チラシ

web広告
2022年1月4日～31日
2022年4月1日～28日
登竜門・公募ガイド
2022年1月4日～2月3日
2022年4月1日～30日
SHIFT・ART IT・Facebook



雑誌広告
2022年1月7日 美術手帖
2022年1月25日 芸術新潮



PRイベントポスター



PRイベントチラシ



ポロシャツ



エコバッグ



クリアファイル



のぼり

会期前



入選発表チラシ



ボランティア募集チラシ



雑誌広告
2023年3月7日 美術手帖
2023年3月25日 芸術新潮



プレイベントチラシ

プレイベントチラシ



トークイベントチラシ

会期前～会期中



開催周知ポスター



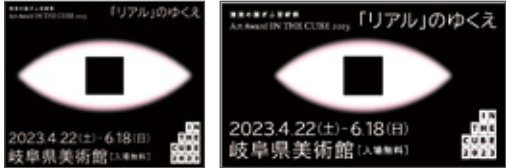
開催周知チラシ



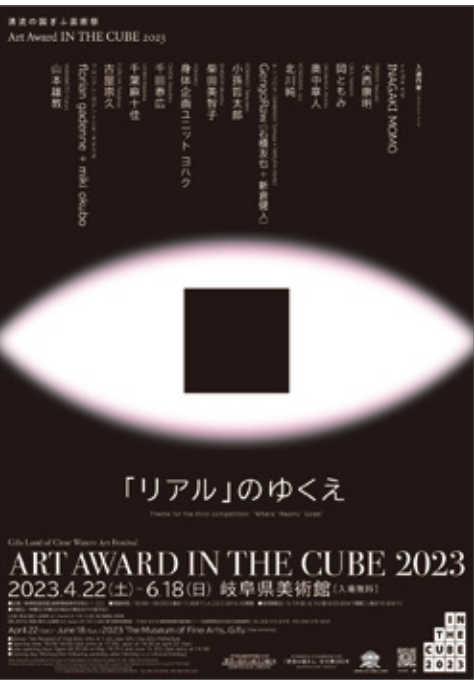
ガイドブック



会期中イベントチラシ



web広告
2023年4月1日～28日 JDN
2023年4月1日～30日 Tokyo Art Beat・SHIFT



交通広告 JR駅貼り2023年4月24日～30日・JR中吊り2023年4月27日～5月3日



県内フリーペーパー
2023年4月20日・25日・28日



新聞広告
2023年4月22日 中日新聞岐阜版・岐阜新聞 全5段



シティドレッシング

2023年4月21日ー6月18日

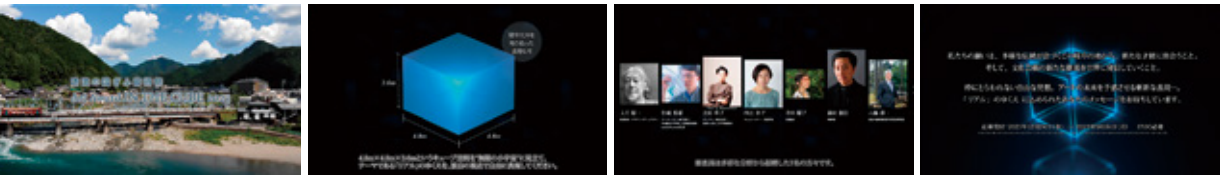


JR岐阜駅前デッキ 横断幕 JR岐阜駅前バスターミナルのぼり 名鉄岐阜駅前アーケード天吊りバナー

動画

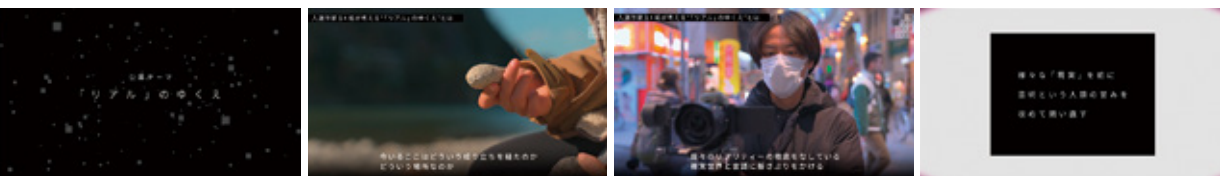
作品募集

広くAAIC2023への応募を募るために、AAICの魅力・AAIC2017と2020の実績・AAIC2023の公募要項を動画にまとめた。



作家紹介

展覧会に興味を持っていたが、来場を促進するために、制作途中の作家へ取材して、完成に向けた想いや意気込みを動画にした。

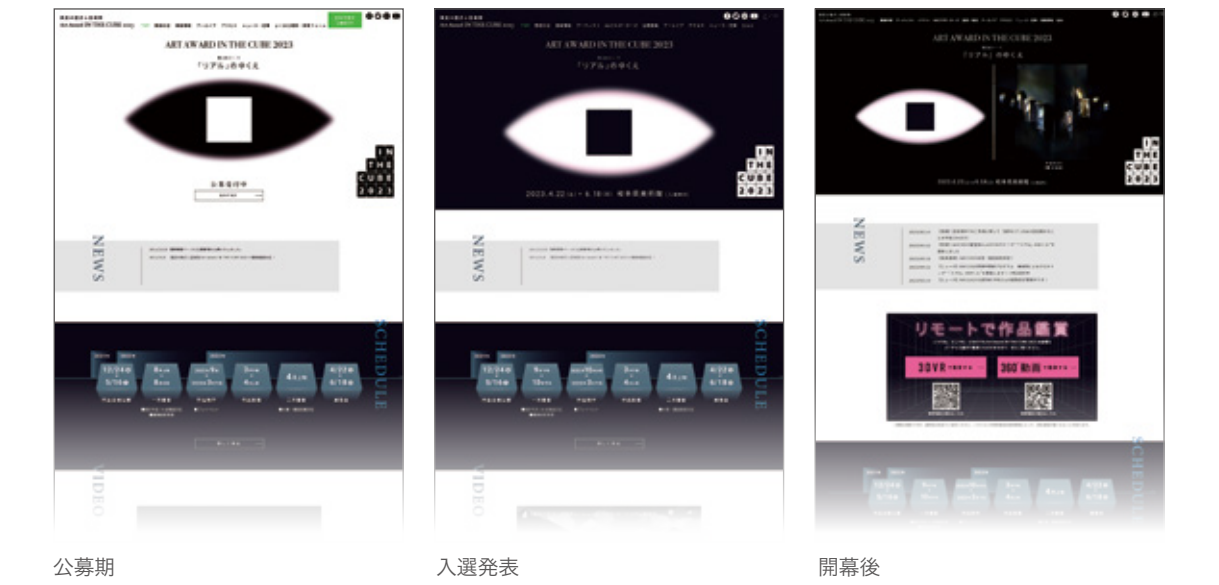


二次審査講評

入賞作品を決定する二次審査を終えた審査員にインタビューし、講評を一つの動画としてまとめた。



公式サイト



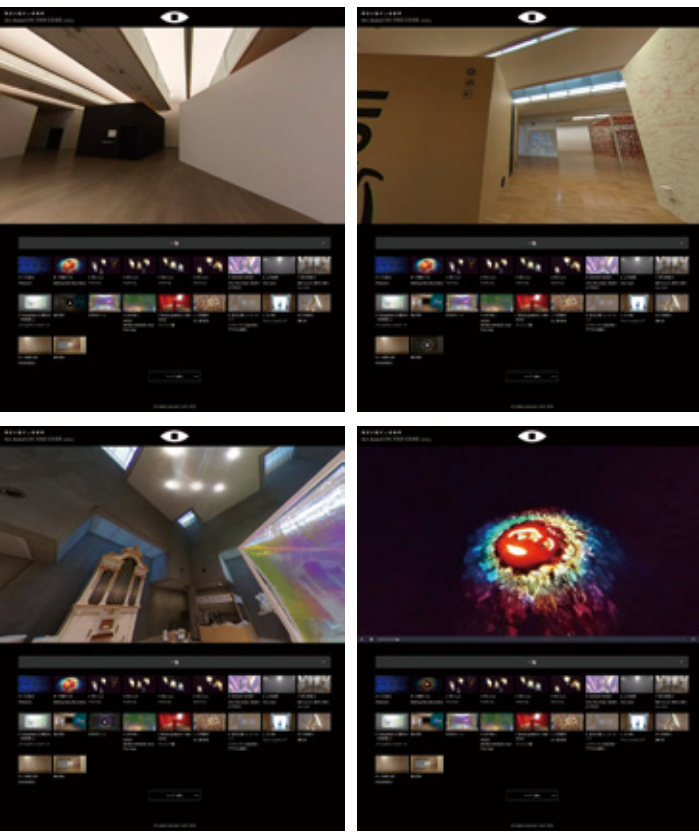
バーチャル鑑賞

多くの皆様に鑑賞いただけるよう、パソコンやスマートフォンなどから時間・場所にとらわれず展示会場を歩いて移動してのような目線で鑑賞できる「3Dビュー映像」と「360°動画」を展覧会の開幕にあわせて公式サイト上に公開。「来場前に事前確認」「会場で見た後に、もう一度鑑賞」「行きたくても行けないのでリモートで鑑賞」等々、多くの方々にご利用いただいた。

3Dビュー映像



360°動画



バーチャル鑑賞はこちらから

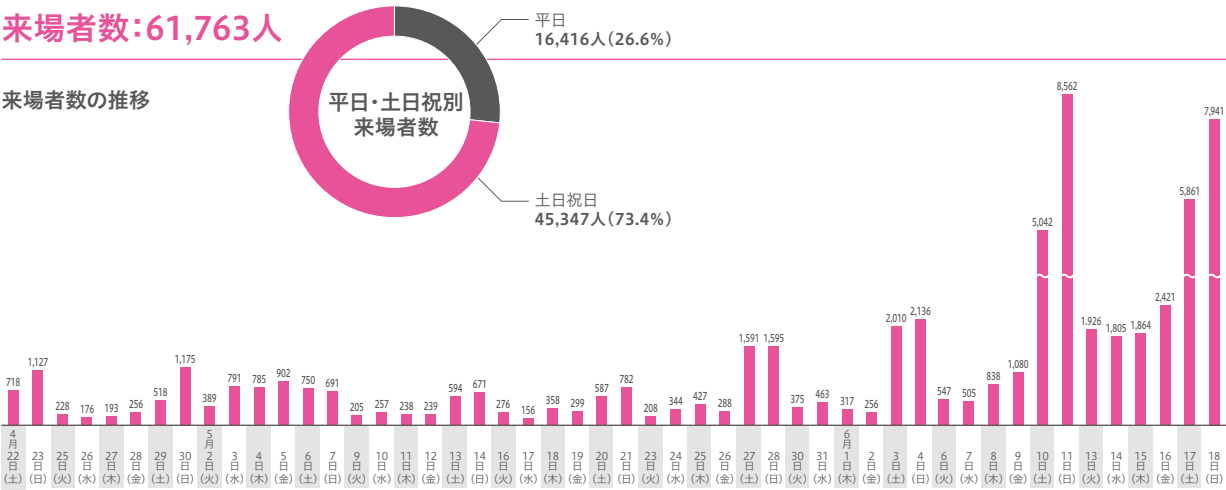


来場者アンケート

ご来場いただいた方による会期中のSNS投稿をきっかけに、来場者数が増加。会期中の来場者数の推移と来場者アンケート（アンケート項目からの抜粋）をまとめた。

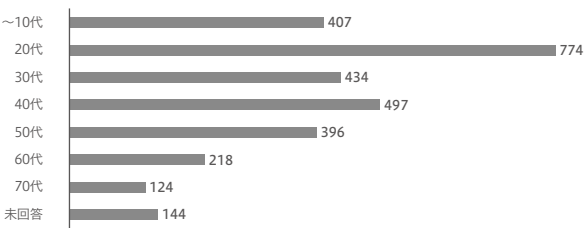
来場者数:61,763人

来場者数の推移

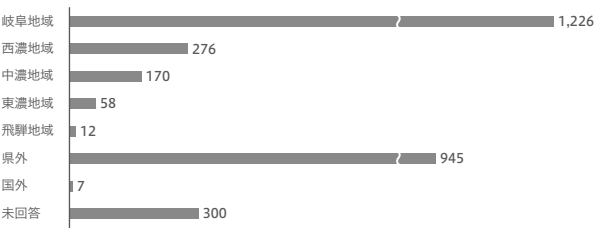


来場者アンケート:回答数2,994件

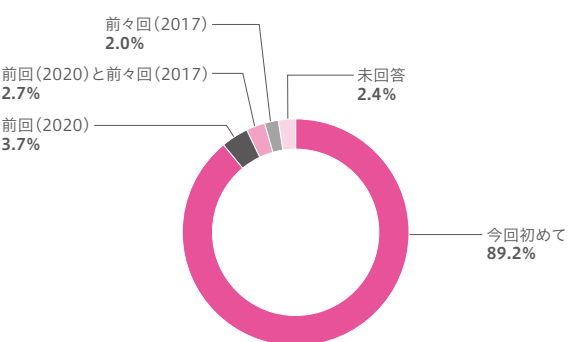
年齢



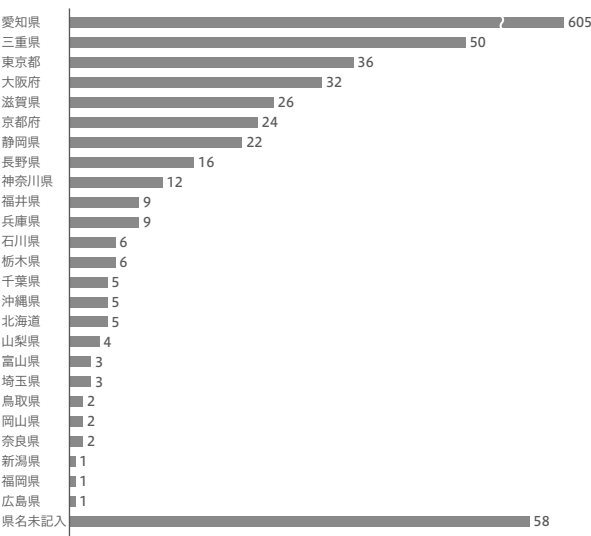
お住まいの地域



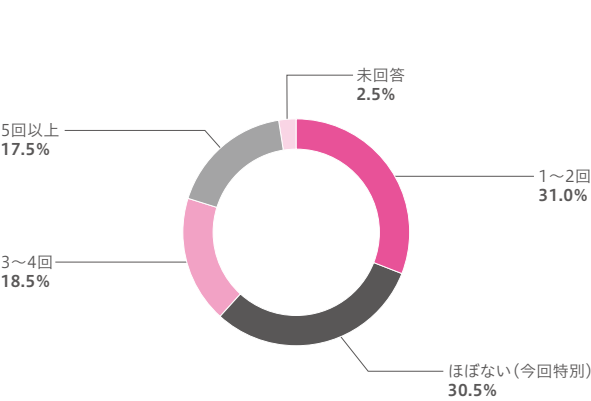
前回・前々回のAAICを鑑賞したことがありますか



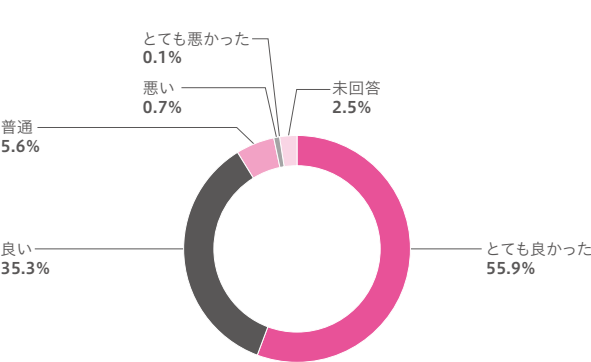
県内外訳



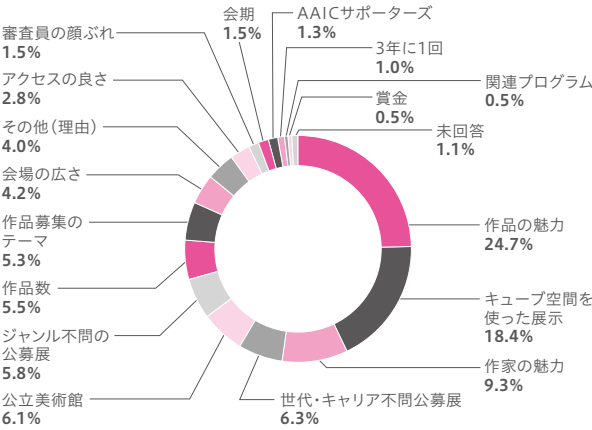
他の美術展への年間訪問回数を教えてください



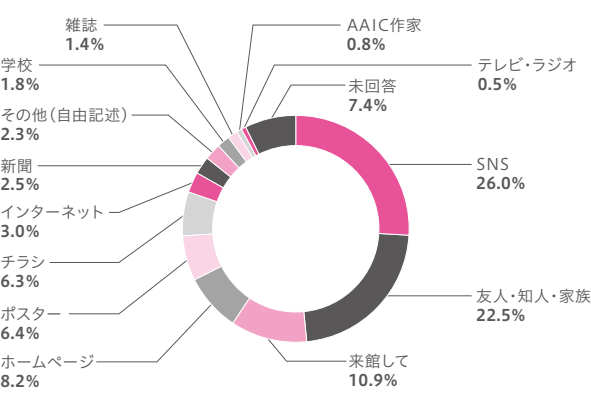
AAIC2023をご覧になっていかがでしたか



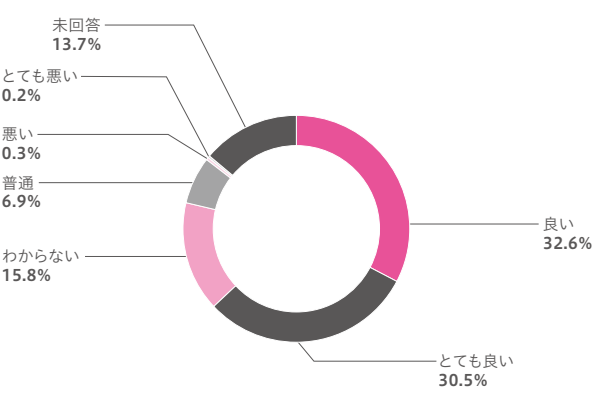
「とても良かった」「良い」と思った理由



AAIC2023をどちらで知りましたか(複数回答可)



「バーチャル鑑賞」の取り組みについて感想をお聞かせください



その他、ご感想やお気づきの点等(自由記述／いただいたご意見・感想から一部抜粋)

展覧会全般について

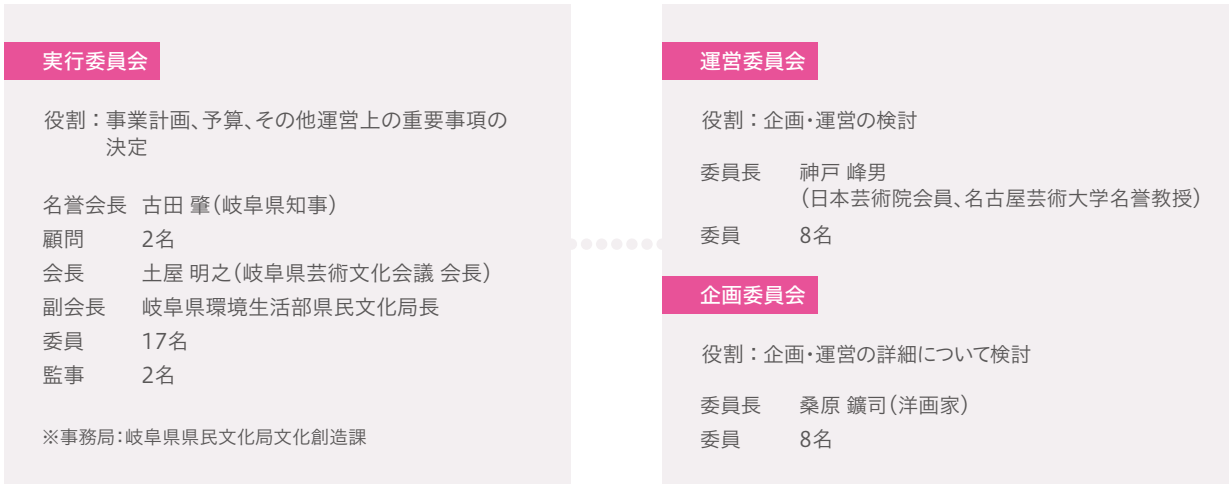
- ・とても見応えがあった。美術館に入った途端、日常から離れた場所に飛び込んだ感覚がした。
- ・作品それぞれがいろいろな視点でとらえ、考えを形にしているところがすごい。アートってすばらしい!!!
- ・毎年開催してほしい。
- ・20年生きてきて初めて岐阜県美術館に来たが、とても感動した。鳥肌がたった。
- ・静かに観たかったので2回来館しました。アーティストの方に感想を伝えたいくらい良かった。
- ・今まで見た公募展で一番見応えがあったし、夢中で見てしまった。次回があれば、必ず見たい。
- ・次回公募でやるときは応募してみたいと思った。いろんな価値観、視点に触れられて、良い刺激になった。
- ・他の現代アート展に比べて規模は小さいが、クオリティーが高く、心に残る作品が多かった。
- ・美術館に普段来ないような層(10代、子ども連れ)が来ていることは大変素晴らしいが、作品を鑑賞する上でのマナーや暗黙の了解が薄れ、ややストレスを感じた。
- ・駐車場の整理がよくできていなかったで、混雑時の交通整理をもう少ししっかり行っていただけるとよい。
- ・テーマを先に理解したうえで鑑賞することをもっと告知するべき。そうでなければ作品の魅力が半減する。

キューブ・テーマについて

- ・全員が同じサイズのキューブという制約の中での作品づくりなので、比較がしやすいし、力量の差が出て面白い。
- ・キューブ空間の中に様々な表現が詰め込まれていて大変面白かった。
- ・箱の中で展示することで、人目や人の流れを気にせず作品に没入することができた。普段の美術鑑賞より、長い時間、濃い密度で作品を観ることができた。
- ・それぞれの作家の「リアル」を考えさせられて良かった。コロナ、デジタル…今を感じさせられるテーマだと思う。



運営体制



清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 実行委員会 委員名簿

Art Award IN THE CUBE を円滑に開催するため、関係機関及び団体との連絡調整など必要な事業を行っています。

役職	氏名	所属機関・団体役職
名誉会長	古田 肇	岐阜県知事
顧問	野島 征夫	岐阜県議会 議長
	杉山 幹夫	株式会社岐阜新聞社 最高顧問
会長	土屋 明之	岐阜県芸術文化会議 会長
副会長	籠橋 智基	岐阜県環境生活部県民文化局長
委員(五十音順)	有賀 信彦	株式会社中日新聞社 岐阜支社長
	石崎 泰之	岐阜県現代陶芸美術館 館長
	今西 良共	岐阜県立国際園芸アカデミー 学長
	小野寺 茂樹	日本放送協会岐阜放送局 局長
	金子 政則	岐阜県町村会 会長
	桑原 鑑司	Art Award IN THE CUBE企画委員会 委員長
	境 敏幸	株式会社大垣共立銀行 取締役頭取
	柴橋 正直	岐阜県市長会 会長
	高木 敏彦	公益財団法人岐阜県教育文化財団 理事長
	竹本 義明	名古屋芸術大学 学長
	田島 一男	岐阜県美術館後援会 会長
	日比野 克彦	岐阜県美術館 館長、東京藝術大学 学長
	堀 貴雄	岐阜県教育委員会 教育長
	村瀬 幸雄	株式会社十六銀行 取締役会長
	森 保	岐阜県立国際たくみアカデミー 校長
	矢島 薫	株式会社岐阜新聞社 代表取締役社長
	若井 敦子	岐阜県議会厚生環境委員会 委員長
監事	高野 朋治	岐阜県出納管理課長
	柳 友仁	公益財団法人岐阜県教育文化財団 経営管理課長

清流の国ぎふ芸術祭運営委員会 委員名簿

全国規模の公募展(AAIC)、県民参加型の公募展(ぎふ美術展等)の企画運営に関する専門的な事項を検討していただいています。

役職	氏名	所属機関・団体役職
委員長	神戸 峰男	日本芸術院会員、名古屋芸術大学 名誉教授
委員(五十音順)	臼井 千里	書家、岐阜県世界青年友の会 常務理事
	角田 茉瑳子	児童文学作家
	加藤 幸兵衛	陶芸家
	桑原 鑑司	洋画家
	土屋 明之	岐阜県芸術文化会議 会長
	仲居 宏二	元聖心女子大学 教授
	日比野 克彦	岐阜県美術館 館長、東京藝術大学 学長
	廣瀬 輝	一般社団法人中部地域づくり協会 理事長

Art Award IN THE CUBE 企画委員会 委員名簿

全国規模の企画公募展「Art Award IN THE CUBE」の企画運営の詳細事項(展覧会のテーマ、企画公募展の実施計画、公募作品の規格、審査員及び審査方法、広報計画など)について、専門的な立場から検討していただいています。

役職	氏名	所属機関・団体役職
委員長	桑原 鑑司	洋画家
委員(五十音順)	青木 正弘	美術評論家
	安藤 泰彦	美術作家、元情報科学芸術大学院大学(IAMAS) 教授
	河西 栄二	岐阜大学教育学部 教授
	衣笠 文彦	彫刻家、岐阜聖徳学園大学短期大学部 非常勤講師
	佐藤 昌宏	画家
	高橋 綾子	美術評論家、名古屋造形大学 教授
	日比野 克彦	岐阜県美術館 館長、東京藝術大学 学長
	三輪 眞弘	情報科学芸術大学院大学(IAMAS) 教授

Art Award IN THE CUBE 2023 を終えて

桑原 鑛司 (Art Award IN THE CUBE 企画委員会 委員長)

”現代アート”なる言葉が新聞、雑誌に頻繁に現れるようになったのは、20年ほど前であろうか。それまでポロックが絵画の限界を追求し、ヘンリー・ムーアが堂々たる人間の存在を示そうとしていた時代は、芸術の最先端は現代美術(モダンアート)と呼ばれていた。それが、医療においてIPS細胞が開発され、コロナが人類を恐怖に陥れ、AIが人々に不安と希望をもたらした頃から世の中は大きな変化を見せ始めた。隔世的と言って良いほどの変化であった。美術においてもそれは始まった。

2017年に第1回を開催したAAIC展は、自ら現代アートの展覧会と名乗ったことないけれど、作家たちも観客も「これは現代アートの展覧会だ」と捉えたようだった。現代アートという言葉は、重箱読みのようなおかしな日本語ではあるが、美術における大変化を象徴する言葉となった。第1回のAAIC展を観た私の友人は「あれが美術か?どうやって観ればいいんだ?」と言った。それまでの美術の常識では現代アートを受け止めることができなかったのだ。美術館へ展覧会を観に行けば、そこにあるのは絵画か彫刻だと思っている人が戸惑うのは当然であつたらう。しかし、人間はどんなに大きな変化にも、良くも悪くも慣れる。明日に向かって希望が持てるならば、時間の経過とともに克服し、親しむようにさえる。

第3回のAAIC展を終えた今、人々の変化には眼を見張るものがある。特に20～30代の若い人々の柔軟な感受性は素晴らしい。入場者数は飛躍的に増え、アンケートから読み取れる反応は極めて好意的である。作品に対する理解度がはるかに深まり「楽しかった」、「共感した」などの声が非常に多かった。「現代アートの展覧会の開催をもっと増やして欲しい」という要望には正直驚かされた。3回の開催を経て、人々が現代アートに馴染んできたことを実感することができる。こうなれば、作家たちに対する期待も膨らんでくる。私たちと同じ今という時代を生きる作家たちがどんな作品を生み出してくれるのか。どんな”今”を見せてくれるのか。最後に、今回の展覧会開催の舞台裏について述べておきたい。まず一次審査においては依然として課題を残す。600点近い

応募作品を十数点に絞り込む審査を、書類、マケット、スケッチ、DVDによって行わなければならないことから生ずる多くの問題にいかに対処するか、である。

一方で特筆すべきことは、制作アドバイザーというポジションの新設である。作家の制作支援に関しては、本展の特色として入選作家に50万円の制作支援金を提供すること、制作場面でのボランティアによる支援体制の構築、材料調達等に関わる企業・団体の紹介など、作家の制作活動の助けになると思われることはできる限りのことをしてきたが、これらに加えて今回は、制作アドバイザーとして、AAIC企画委員であり彫刻家でもある衣笠文彦氏を配したことを記しておかなくてはならない。作家とボランティア、展覧会事務局(県・文化創造課)との繋ぎ役である。制作現場で発生する様々な事態に対応しようとの思いから、衣笠氏が自ら買って出てくれた役割であったが、これが見事にハマった。あらゆる意味で現場の潤滑油となった。

企業・団体からの協賛を募ることも力を入れた。以前から公益財団法人 田口福寿会、十六フィナンシャルグループ、大垣共立銀行からのご協力は頂いていたが、一般県民も含めて広く企業、団体等に認知、応援していただけるようにしたいとの思いから、地道に働きかけを始めた。限られた時間だったため多くは期待できなかったが、それでも新たに13の企業・団体が快く応じてくださり、次回以降に一つの道筋を拓くことができた。

またボランティア、展覧会事務局スタッフの気持ちのこもった取り組みは、本当にありがたいものであった。特に事務局スタッフの、何としても展覧会を成功させようという熱い思いは、長い準備期間を通して、また展覧会場においても変わることなく感じることができた。例えば県内の小、中、高、特別支援学校、合わせて41校を、各校の都合に合わせて招待し、団体鑑賞の案内をするという取り組みにも見る事ができた。これは、生徒たちはもとより親、家族にも大好評であった。熱意、情熱というものはどんな場合でも何事かをなす時の原動力であろう。



令和5年度
文化庁
文化芸術創造拠点
形成事業



AAIC2023の記録動画はこちらから

6万人を超える方々にご来場いただいた「AAIC2023」の入選作家、審査、作品制作、完成作品、表彰式・開場式、展覧会場のにぎわいの様子などを約15分の動画にまとめました。

発行年 2023年12月発行

編集 清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 実行委員会事務局

印刷 サンメッセ株式会社

発行 清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 実行委員会

©清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 実行委員会

無断転載・複写を禁じます。

本書では敬称を省略しております。

また、本書掲載の肩書きは2023年8月1日現在のものです。

助成 公益財団法人田口福寿会

協賛 十六フィナンシャルグループ

OKB 大垣共立銀行



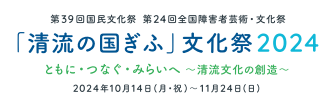
森ビル都市企画株式会社

昭和コンクリート工業株式会社

一般社団法人 岐阜ファッション産業連合会

中日本高速道路株式会社 名古屋支社

他5社



「リアル」
の
ゆくえ

IN
THE
CUBE
2023